

国経研だより

神奈川大学 国際経営研究所
〒259-1293 平塚市土屋 2946
神奈川大学湘南ひらつかキャンパス
TEL 0463-59-4111 (内線 2200)

物の見方、はかりかた

行川 一郎

日本の人口は1億2711万人(2015年10月国勢調査速報値)。1920年の国勢調査開始以来、初めての減少だそう。5年前の調査より95万人近く減ったとの総務省発表(2016年2月)を知り、数字をはじいたところ何と湘南地域の人口(平塚市+茅ヶ崎市+藤沢市)が消滅してしまったに等しいではないか。『地方消滅』という衝撃的なタイトルの本が記憶に新しいが、言われるまでもなく日本の将来は深刻である。

かつて、あくせくと過密な島国で働く日本人(=自分たち)を自虐的に揶揄する考え方が流行った。ならばたとえば人口が半分の百年前の日本に戻ったら住みやすいだろうか。物事は単純にははかれなない。単純化した話はわかりやすいがそこには大抵、裏があり罫が潜んでいる。「人口減少などどうでも良い」という突き放した見方はさらに危険で非現実的だ。広く深く多様な視点で多元的に見、考え、語ることが重要であり必要だという、複雑で深刻な一つの例が人口問題だが、これ以上紙幅を割くことは本意ではない。世の中には多くの課題があり取り組むことさえ容易ではない焦眉(しよび)の事例の一つを挙げたままであり、絡まった糸のような難題を私達は英知で答えを見つけていかなければならないのである。

とはいえ問題に対処するにしても、先人は「三人寄れば文殊の知恵」と宣(のたま)ったがそう容易に答えが見つかるものでもない。ただ、何かと便利な今日、答えらしきものはネット検索ですぐに出てくる。

世の中はバラ色だ。が、これは実に危険ではないだろうか。吟味されたかどうかも未知数の意見や思想や回答や論考が単純にクリックするだけで出てきて、そこに真実があると勘違いしてしまう。慎重な検証を多元的にはかってこそなのに、安易さにかまけてしまう。そのような行為の行き着く先には知性の滅亡しかないだろう。さらにソーシャルメディアの隆盛に伴い首をかしげる意見や思想、考え方が巷に溢れて行方も定まり知らぬ現今になってきている。

デジタル社会は鶴(ぬえ)のような現実世界を手玉に取りインスタントに答えもどきを出してくれるが、そのような便利さを悪だというのならば、原因や責任は使う私達の側にあるだろう。インスタントといえば食品をすぐ連想するが、私達は今では賢くインスタント食品を使いこ

なしているではないか。デジタル社会にしてもその洗礼をくぐり抜けた先で、私達は今まで得ることのできなかつた武器をものにできると信じたい。

辞書の「辞」(辭)は絡まった糸を解きほぐすという会意文字だそうだが、辞書しかり検索しかり、道具を便利に賢く駆使して私達の目的を達成すればよい。BigData時代は真実探求の新時代の到来となりうるだろう。

所員一同、新年度も更なる邁進をしていく所存です。各々にはよろしくお願ひ申し上げます。

(所長/なめかわ・いちろう)



